実社会に貢献する社会安全学研究

2025 年は、日本航空ジャンボ機墜落事故（1985 年）から 40 年、阪神・淡路大震災（1995 年）から 30 年、JR 福知山線脱線事故（2005 年）から 20 年にあたる。社会安全学は、大規模地震などの自然災害、組織事故などの社会災害を対象に、安全・安心な社会の構築を目的とした学際研究の総称である。関西大学社会安全学部は、このような過去の大規模災害を対象に社会安全学の研究を行い、下記の研究叢書 6 冊、入門書（日本語・英語版各 1 冊）を発刊してきた。

社会安全学叢書：いずれもミネルヴァ書房より発刊

第 1 巻『検証　東日本大震災』（2012 年）
第 2 巻『事故防止のための社会安全学』（2013 年）
第 3 巻『防災・減災のための社会安全学』（2014 年）
第 4 巻『リスク管理のための社会安全学』（2015 年）
第 5 巻『東日本大震災　復興 5 年目の検証』（2016 年）
第 6 巻『検証　COVID-19 災害』（2022 年）

テキスト：日本語版はミネルヴァ書房、英語版は Springer より発刊

『社会安全学入門』（2018 年）
S. Abe, M. Ozawa, Y. Kawata, eds. (2018). *Science of Societal Safety: Living at Times of Risks and Disasers.*

上記の研究叢書・テキストは、関西大学社会安全学部の専任教員が執筆したものであるが、これらとは別に、投稿資格を設けず社会安全学に関する研究成果の発表・報告を行うための学術論文集『社会安全学研究』を継続的に発刊している。本論文集に投稿された原著論文・速報論文のうち、査読を通過したものは速やかに Web に掲載して公表することで、研究成果の実社会での実践・実装に貢献している。さらに掲載された論文は、毎年度末に印刷物として刊行しており、本論文集は第 15 巻になる。

2024 年は、能登半島地震（1 月 1 日）、能登半島豪雨（9 月 21 日）、日本航空機と海上保安庁機の衝突事故（1 月 2 日）、製薬会社が製造した健康食品による健康被害事案（1 月 15 日～）など多くの災害が発生した。また 8 月 8 日にはマグニチュード 7.1 の日向灘地震の発生を受けて、わが国は「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」を初めて発表した。今後、大規模地震災害の発災が懸念される。

関西大学は学是として、「学の実化（がくのじつげ）」を掲げている。これは、実社会の経験と知識を研究に取り入れて研究・教育を行い、その成果を実社会に生かしてこそ、学問は社会に貢献できる

という考え方である。今後も多くの自然災害、社会災害の発生が想定される中、社会安全学研究の積み重ねにより、少しでも防災・減災または発生予防に貢献できることを期待している。

2025 年 1 月

関西大学社会安全学部長・
大学院社会安全研究科長
髙　野　　一　彦